

(様式2)新規評価シート

建設部 砂防課

事業名		地すべり対策事業		路河川名等	追平									
事業毎の通番		6	市町村名	長野市中条	箇所名(ふりがな)	追平(おいだいら)								
事業概要	事業目的	小手屋地区(追平地区地すべり防止区域に隣接)において、平成29年7月13日夜の集中豪雨により、複数箇所で土砂崩落が発生し、人家2戸をはじめ、県道401号や市道が被災した。未だなお継続する変状を抑えるべく、応急対策工(施工済)に加え、対策を講じる必要がある。このため、地すべり対策事業を実施し、地域の安全・安心を確保する。												
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-1 県土の強靱化(災害に強いインフラ整備)		事業実施の根拠法令等	地すべり防止法									
	関連する事業、計画等	県単道路改築												
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	保全対象人家 10戸、県道小川長野線175m 市道375m												
	着手年度	平成30年度	事業期間	3年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)								
	完成年度(見込み)	平成33年度	費用対効果	5.84	国庫	その他	県債	一般財源						
	全体事業内容(主な工種)	吹付法枠工 A=600㎡ 土留工 L=300m 横ホーリング工 L=2,250m 水路工 L=500m			150,000	75,000	60,000	15,000						
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	人家、道路等の保全												
	間接的効果(定量的・定性的)	災害に強い地域づくり												
評価の視点	必要性	人家戸数:	10戸	公共施設:	県道175m 市道375m	要配慮者支援施設:			なし	河川への土砂流量:	約1万m3	評価	B	
	重要性	過去の災害履歴:	10年以内に1回以上	交通遮断による地域経済への影響:	県道の被災により近隣住民の生活に影響がある	地域防災計画上の位置付け:			県及び市の両方に位置付けあり	評価	A			
	効率性	費用便益比(B/C):	5.84	事業期間:	平成30~32年度(3箇年)	工法等の比較検討:			調査・解析を行い工法を検討する	評価	A			
	緊急性	地すべり活動度:	顕著な動きがある	地すべり変状:	変状あり	下流の堰堤等の整備状況:			なし	評価	A			
	計画熟度	事業情報の共有:	関係者を中心に周知している	地域の取り組み:	市から要望があり協力的である	地域の合意形成:			事業目的について合意形成が図られている	評価	B			
	住民の協働:	防災体制整備												
所管課意見	平成29年7月13日夜の集中豪雨により、複数箇所で土砂崩落が発生し、人家2戸をはじめ、県道401号や市道で一次通行止となった。このまま放置すれば変状が進行し、周辺人家や道路等への被害の拡大が懸念される。そのため地すべり対策工を行う必要がある。										採択状況	総合評価	○	A
技術管理室意見	所管課の意見を適当と認める。													

【位置図、平面図、構造図等】(縮尺任意ですが、見やすいもので)	
位置図	
平面図	
【整備の必要性がわかる状況写真等】	
家屋の被災状況	
家屋の変状	
①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	平成29年7月の豪雨により斜面崩落等の被害が生じた。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	災害発生を機に、市及び地元区を含む緊急連絡体制を構築している。崩壊した法下の人家からも早期の対策が望まれている。
③事業説明等の経緯	市、地元区を含む緊急連絡体制により、変状があった場合の通報を依頼している。
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	地すべりブロック内で県単道路改築事業を実施中
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	横ホーリング孔口等、地表に露出するものはふとん簞など、自然の資材を用いたもので施工し、環境や景観に馴染むよう配慮する。
⑥地域活性化への影響と配慮	本事業により地すべり災害の防止が図られ、災害に強い地域づくりが推進される。
⑦その他	なし
事業代表地点の緯度経度	北緯:N 36° 38' 24" 17 東経:E 138° 1' 2" 56